

令和4年度  
シラバス



第3学年  
北海道天売高等学校

# 目 次

・目次/シラバスとは	表紙裏
・令和2年度 入学者教育課程図	1
・第3学年	
1. 『現代文B』	2
2. 『現代社会』	4
3. 『数学Ⅱ』	6
4. 『体育』	8
5. 『書道Ⅰ』	10
6. 『コミュニケーション英語Ⅱ』	12
7. 『情報処理』	15
8. 『数学B』(選択A)	17
9. 『ビジネス情報』(選択A)	19
10. 『数学研究』(選択B)	21
11. 『化学基礎』(選択B)	23
12. 『英語会話』(選択C)	25
13. 『課題研究』(選択C)	27
14. 『水産海洋基礎』	29
15. 『天売学』	31

## ★シラバスとは？

「シラバス」とは、学校で行われる授業の年間学習案内です。これから1年間を通じて授業で「何を、何のために、いつ、どう学び、どのように評価されるのか」を生徒の皆さんや、保護者並びに地域の方々に説明するためのものです。

「シラバス」により、学校でどのような勉強をしているかがわかります。ご家庭での進路相談などに役立てていただければ幸いです。

## ★シラバスをどう活用すれば良いのでしょうか？

高校生活はわずか3年～4年です。本校生徒の皆さんは昼間働き、夜に貴重な時間を費やして学びにきています。ですから限られた時間を有効に活用することが大切です。

言うまでもなく、日常の学習活動の基本は学校の授業です。「シラバス」を確認することによって、1年間の授業の進捗や内容が事前に分かるので、先を見通した学習計画を立てられます。また、学校の学習以外にも、進学のために添削指導が必要で、そういった指導をぜひ受けたいという人もいることでしょう。効率よく学習を進めるには、学校の授業やそれ以外の学習を計画的・継続的に、上手に組み合わせていくことです。

「シラバス」は、生徒の皆さんが主体的に学ぶ手助けをする「学びのナビゲーター」です。「シラバス」を参考にして、それぞれの自己実現へ向けて第一歩を踏み出して下さい。

## 令和2年度入学生・3修コース

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
1年	国語総合			世界史A		数学Ⅰ				科学と人間生活		体 育			
2年	現代文B			地理A		数学Ⅱ		数学A		生物基礎		体 育		保健	
3年	現代文B			現代社会		数学Ⅱ			体 育			コミュニケーション英語Ⅱ		書道Ⅰ	情報処理
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15

	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
1年	保健	コミュニケーション英語Ⅰ				社会と情報		水産 海洋 基礎	天売学	総合
2年	書道Ⅰ	コミュニケーション英語Ⅱ			家庭基礎		情報 処理	水産 海洋 基礎	天売学	総合
3年	選択A  古典 数学B ビジネス情報		選択B  日本史A 数学研究 化学基礎		選択C  生物 英語会話 課題研究			水産 海洋 基礎	天売学	総合
	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25

科目名	現代文B	学 年	3	単位数	3
科目の 目 標	近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。				
教科書	新編現代文B 改訂版（大修館書店）	副教材	新訂国語総覧（京都書房） 意味から学ぶ頻出漢字（第一学習社）		

### 1 学習の目標

- (1) 近代以降の多様なジャンルの文章を読む中で、的確に理解したり、それをもとに適切に表現したりする能力を養う。
- (2) 登場人物や語り手などのものの見方、感じ方、考え方を捉え、批評する中で進んで読書をしたり、国語の向上を図ったりする態度を養う。

### 2 学習の方法

#### (1) 予習について

ア 漢字の小テストがある場合はその勉強をしておきましょう。他にある場合は、適宜指示を出します。

#### (2) 授業について

ア ノート、ワークシートへの記述をしっかりと行うとともに、授業内の活動に積極的に取り組むようにしましょう。

#### (3) 復習について

ア ノートやワークシート、教科書を見直し、学習の振り返りを行ってください。また、それをもとに日常の言語使用にも目を向けてください。

#### 〈学習アドバイス〉

- 単元によって様々な活動（発表、作文など）を行います。その時の指示に従い、積極的に取り組むようにしてください。
- 授業内だけではなく、日常の言語使用も視野に入れて学習に取り組むことを意識しておくとともに力が付きます。

### 3 評価について

#### (1) 評価の観点

観 点	趣 旨
①関心・意欲・態度	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。
②話す・聞く能力	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。
③書く能力	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。
④読む能力	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。
⑤知識・理解	言語文化及び言葉の特徴やさまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。

#### (2) 評価の方法（以下観点①～④は、「(1) 評価の観点」と対応する）

観 点	評価材料	定期 考査	単元 テス ト	漢字 テス ト	発言・発 表の内容	ノート	ワーク シート	討 議	作 文	
	①関心・意欲・態度		○	○	◎	◎	◎	◎	○	○
②話す・聞く能力			○		◎		◎	◎		
③書く能力			○		○		◎		◎	
④読む能力		○	○		○	◎	◎			
⑤知識・理解		○	○	◎	○	○	○			

4 授業計画

月	単 元	学習内容	評価の観点
4	自分の理想とする人物像を話し合う。 「どんな人になりたかったか？」	教材文から語り手がどのような人物に憧れたのかを自分の経験と結び付けながら読み取り、自らの意見を話し合う。	②相手の話した内容を評価し、それをもとに自らの考えを見直したり、深めたり、広げたりしているか。
5	続き物語を書く。 「おぼろ月」  <u>前期中間考査</u>	おさとの心情の変化や月の描写を読み取り、そこから、続き物語を想像して書く。	④文章に描かれている人物の心情を表現に即して読み取り、その後の物語を想像しているか。
6	敬語の機能を調査し、理解する。 「敬語への自覚、他者への自覚」	教材文で述べられている敬語の機能を踏まえ、その敬語の機能がどのような場面で見られるか、用例調査を行い、結果を発表する。	②③収集した情報を分析、整理して資料を作成し、発表しているか。
7	高校生活で体験したことを発表する。 (生活体験発表)	生活体験発表大会に向け、大会の趣旨に沿うテーマを設定して発表原稿を書く。	②③目的や場に応じて適切な言葉を用い、筋道を立てて文章を書いたり、話したりしているか。
8	  <u>前期期末考査</u>		
9	自身の心に残っている殺し文句を紹介する。 「殺し文句は永遠に 一恋する伊勢物語」	教材文で述べられている殺し文句になる条件を捉え、それをもとに、自らが知る殺し文句を紹介する。	④教材文の構成、展開を的確に捉え、本文の内容を理解し、それを詳述することができているか。
10	好きな歌人・俳人について調べ、発表する。 「短歌」、「俳句」	短歌、俳句を鑑賞した後に、その中で気になった作品の作者について調べ、まとめる。	④幅広く本や文章を読み作者の情報を得て、効果的に用いているか。
11	リーディングワークショップに取り組む。(読書週間との連携) 「読書の記録をつけよう」  「日本人と幸福」に関するいくつかの記事を読み、自分の意見を書く。 「幸せの分量」  <u>後期中間考査</u>	今までの読書の経験を踏まえ、本を選び、そこから学んだことをまとめ、伝える。  教材文から日本人の幸福の捉え方を読み取り、他の記事を読みながらそれについての理解を深め、自らの意見を書く。	④読み取った内容を他の人にわかるように詳しく解説しているか。  ③参考文献をもとにして持った意見を構成、展開を工夫して書くことができているか。
12	語り手を対象化して捉え、読み味わう。 「こころ」	先生の遺書の語りに着目し、その語りに隠された、先生の心情を考える。	④語り手のものの見方、感じ方、考え方を捉え、自分なりの意見を持ち、考えを深めているか。
1	読書の世界を広げる。 「星の王子さま」、「鉄道員」	今後の読書生活を豊かにするために、名作を読み味わう。	④様々な文章に書かれている人間、社会、自然などについて自分なりの考えを形成しているか。

※【関心・意欲・態度】→①、【話す・聞く能力】→②、【書く能力】→③、【読む能力】→④、【知識・理解】→⑤として表現しています。紙幅の都合上、①、⑤の評価の観点は記述されていませんが、それらは全ての単元において関わるものであるため、授業時にその都度それらを示すようにします。

※進路実現へ向けて生徒の皆さんに必要な力をつけるため、適宜、記載にない教材も使用します。

科目名	現代社会	学年	3	単位数	2
科目の目標	人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。				
教科書	最新 現代社会 新訂版（実教出版）	副教材	教科書準拠ワークブック（実教出版）		

### 1 学習の目標

- (1) 中学校での授業や他教科で身につけた知識をもとに、現代社会における基本的な問題に対する判断力の基礎を養う。
- (2) 様々な疑問をもって自分の考えや意見をまとめて表現することで人間としての在り方生き方を考える力を養う。
- (3) 授業で学んだ内容を今自分が生きている社会と関連させて、現代の諸課題を探究する姿勢を身につける。

### 2 学習の方法

#### (1) 授業について

ア 授業で学んだことを現代と結び付けるために、新聞やニュースを見て社会の動きに触れて下さい。分からないことがあれば遠慮なく質問しましょう。

イ 考査は授業で扱った内容を中心に出題します。予習・復習も大切ですが、何よりも授業を重視して下さい。

#### (2) 単元について

ア それぞれの単元ごとに中心となる課題を意識して授業を受けましょう。

イ 何を勉強しているのか分からなくなった時は、単元を意識して学習してください。

#### 〈学習アドバイス〉

- ・内容に対して「なぜ？」という疑問を常に持って授業を受けましょう。
- ・思ったことをどんどん発表しましょう。間違っていておかまいませんので、自分の頭の中で終わらないようにしましょう。
- ・ペアワーク・グループワークで話し合いをするときは、他人の意見を尊重しましょう。自分の意見と違っていても否定せず、1つの考えとしてとらえた上で、自分の意見を主張しましょう。

### 3 評価について

#### (1) 評価の観点

観 点	趣 旨
①関心・意欲・態度	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追求するとともに、社会的事象を総合的に考察しようとする態度と平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。
②思考・判断・表現	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。
③資料活用の技能	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。
④知識・理解	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方に関わる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。

#### (2) 評価の方法（以下観点①～④は、「(1) 評価の観点」と対応する）

観 点	評価材料									
	定期考査	単元テスト	小テスト	実技実習	発言発表	作品	レポート	ワークシート	討議	
①関心・意欲・態度	○				○			◎	○	
②思考・判断・表現	○							◎	○	
③資料活用の技能	○							◎	○	
④知識・理解	◎		○					○		

4 授業計画

月	単元	学習内容	評価の観点
4	現代国家と民主政治	オリエンテーション 民主政治の成立 民主政治の基本原理・しくみと課題 世界の主な政治制度	①民主政治に関する事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追求するとともに、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。
5	日本国憲法の成立・日本国憲法の基本的性格	日本国憲法の成立・基本的性格 自由に生きる権利 平等に生きる権利 社会権と参政権・請求権 新しい人権・人権保障の広がりと公共の福祉	④すべての人に基本的人権の保障を充実するために必要なことを考え、人間としての在り方生き方に関わる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。
6	(前期中間考査)	平和主義と日本の安全・防衛問題	
7	日本の政治機構と政治参加	政治機構と国会 行政権と行政機能の拡大 公正な裁判の保障 地方自治と住民福祉 政党政治・世論と政治参加 選挙制度	③「法」が必要な理由を、法に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用してまとめている。
8	国際政治の動向	国際社会と国際法 国際連合と国際協力 冷戦の成立とその崩壊 こんにちの国際政治 軍拡競争から軍縮へ 国際平和と日本の役割	②国際関係上の問題が発生する理由を考えて国際問題の課題を見だし、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。
9	(前期後期考査)		
10	現代の経済社会	経済主体と経済活動の意義・変容 市場のしくみと失敗 現代の企業 国民所得・経済成長と福祉 金融の役割 日本銀行の役割 財政の役割と租税 日本の財政の課題	④企業や政府が経済活動を行う目的や、それにたいして責任がある理由を考え、人間としての在り方生き方に関わる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。
11	日本経済の特質と国民生活	戦後復興～バブル経済へ 日本の中小企業 日本の農業 消費者問題 公害の防止と環境保全 労働問題と労働者の権利 社会保障の役割と課題	②我々でもできる社会問題の解決方法を考えて社会問題の課題を見だし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、自分の考えを適切に表現している。
12	国際経済の動向と国際協力	貿易と国際収支 外国為替市場のしくみ 第二次世界大戦後の国際経済 地域的経済統合の進展 こんにちの国際経済 発展途上国の諸課題 経済協力と日本の役割	③日本が国際経済において果たすべき役割や貢献に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用してまとめている。
1	地球環境問題	地球環境問題への取り組み	①なぜ地球環境に対する関心を高め、意欲的に課題を追求するとともに、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。
	資源・エネルギー問題	限りある資源・エネルギーの開発と利用	

※【関心・意欲・態度】→①、【思考・判断・表現】→②、【資料活用の技能】→③、【知識・理解】→④として表現しています。

科目名	数学Ⅱ	学年	3	単位数	3
科目の目標	指数・対数関数および微分・積分の考えについて理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し、表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。				
教科書	東京書籍「改訂 新数学Ⅱ」	副教材	東京書籍「ニューファースト 改訂新数学Ⅱ」		

1 学習の目標

- (1) 数学Ⅰまでの知識をベースに、さらに発展的な内容の数学Ⅱに関する基礎的な知識の習得と技能の習熟を目指します。  
(2) 数学的活動を通して数学的な見方や考え方を身につけ、それらを実生活中で活用できるようになることを目指します。

2 学習の方法

- (1) 予習について  
ア 特別な指示がない限り予習の必要はありません。  
(2) 授業について  
ア 教科書をベースに進めていきます。必要なことは板書以外でもメモを取りましょう。  
(3) 復習について  
ア ノートをよく見直し、授業で扱った問題を再度解き直しましょう。  
イ 課題を課しますので、類題の演習として活用して下さい。

〈学習アドバイス〉

- 「どう考えればうまくいきそうか」など数学的な見方や考え方を常に意識しながら授業を受けましょう。  
○例題と連収問題など、「前の問題との違いはどこか」という視点で問題をみると、前の問題に帰着できます。

3 評価について

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
①関心・意欲・態度	数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。
②数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。
③数学的な技能	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。
④知識・理解	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。

(2) 評価の方法（以下観点①～④は、「(1) 評価の観点」と対応する）

観 点	評価材料												
	定期 考査	単元 テスト	小 テスト	実技 実習	発言 発表	作品	レポ ート	ノート	ワーク シート	討議	学習 課題	休業中 課題	
①関心・意欲・態度					○			○			○	○	
②数学的な見方や考え方	◎		○		○						○	○	
③数学的な技能	◎		○								○	○	
④知識・理解	◎		○		○						○	○	



月	単 元	学習内容	評価の観点
4	3章 三角関数	1節 三角関数 1. 一般角 2. 三角関数 3. 三角関数の相互関係 4. 三角関数のグラフ 5. 三角関数の性質	①角が拡張されていく過程に興味・関心を示している。 ②三角関数の定義から、三角関数の性質を導くことができる。 ③三角関数の相互関係を理解し、これを用いて三角関数の値を求めることができる。 ④三角関数の定義を正確に理解している。
5			
6	(前期中間考査)	2節 加法定理 1. 加法定理 2. 加法定理の応用 3. 弧度法	①加法定理を利用して、いろいろな三角関数の値を求めようとする。 ②加法定理を三角形の面積を利用して証明できる。 ③加法定理を利用して $15^\circ$ や $75^\circ$ の三角関数の値を求めることができる。 ④三角関数の加法定理を正確に理解している。
7	4章 指数関数と対数関数	1節 指数関数 1. 指数の拡張 2. 冪乗根 3. 指数関数とそのグラフ	①指数が拡張されていく過程に興味・関心を示している。 ②指数関数のグラフを用いて、指数を用いて表された数の大小関係を判定できる。 ③指数法則を用いて、いろいろな数の積を計算することができる。 ④指数関数についてのさまざまな用語を正確に理解している。
8			
9	(前期期末考査)	2節 対数関数 1. 対数 2. 対数の性質 3. 対数関数とそのグラフ 4. 常用対数	①常用対数に興味・関心をもち、これを積極的に利用する。 ②指数と対数の関係を理解するとともに、常用対数の意味を理解し、大きな数の桁数などを求めることができる。 ③対数関数の性質を利用して、対数方程式や対数不等式を解くことができる。 ④対数関数に関する用語を正確に理解している。
10		1節 微分係数と導関数 1. 平均変化率 2. 微分係数 3. 導関数 4. 接線	①限りなく近づくことに関心をもち、微分係数を調べようとする。 ②微分係数とその点における接線の傾きを表すという見方ができる。 ③定数倍、和と差の導関数の性質を用いて、いろいろな関数の計算ができる。 ④平均変化率や微分係数の意味を理解するとともに、整関数の微分をすることができる。
11	5章 微分と積分	2節 導関数の応用 1. 関数の増加・減少 2. 関数の極大・極小 3. 関数の最大・最小	①導関数を用いて関数値の増減を調べたり、関数のグラフを描こうとする。 ②導関数の符号の変化から、極大・極小を考えることができる。 ③関数の増加・減少から増減表をつくり、極値を求めることにより、その関数のグラフの概形を描くことができる。 ④導関数の値の正負が、それぞれもとの関数の増加・減少を表していることを理解している。
12	(後期中間考査)	3節 積分 1. 不定積分 2. 定積分 3. 面積	①不定積分の計算を工夫して求めようとする。 ②定積分を面積を表す量としての見方ができる。 ③面積を定積分を活用して処理することができる。 ④整関数を積分することができる。
1			

4 授業計画

※【関心・意欲・態度】→①、【数学的な見方や考え方】→②、【数学的な技能】→③、【知識・理解】→④として表現しています。

科目名	体育	学年	3	単位数	3
科目の目標	生涯にわたって健康的で豊かな生活を営むために、健康の保持増進の観点からスポーツをする意義や楽しさを理解させ、生涯スポーツを実践していく態度と精神を養う。				
教科書	なし	副教材	なし		

### 1 学習の目標

- (1) 運動の合理的・計画的な実践を通して、知識を深め、技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。
- (2) 自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育てる。
- (3) 公正・協力・責任・参画などに対する意欲を高める。
- (4) 生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

### 2 学習の方法

#### (1) 予習について

ア 必要ありません。

#### (2) 授業について

ア 準備等については、全員で協力して行います。

イ 体操については、生徒が輪番制で行います。

#### (3) 復習について

ア 必要ありません。

#### 〈学習アドバイス〉

- 目標を持ち、意欲的に取り組もう。
- 先生の指示に従い、怪我の無いように取り組もう。
- 全員で楽しみながら、技術を向上させよう。

### 3 評価について

#### (1) 評価の観点

観 点	趣 旨
①知識・技能	運動の合理的・計画的な実践を通して運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、技能を身に付けることができる。
②思考力・判断力・表現力	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
③主体的に学習に取り組む態度	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむことができる。

#### (2) 評価の方法（以下観点①～③は、「(1) 評価の観点」と対応する）

観 点	評価材料										
	定期 考査	単元 テスト	小 テスト	実技 実習	発言 発表	作品	レポ ート	ノート	ワーク シート	討議	
①知識・技能				◎	◎					◎	
②思考力・判断力・表現力				◎	◎					◎	
③主体的に学習に取り組む態度				◎	◎					◎	

4 授業計画

月	単 元	学習内容	評価の観点
4	○体育理論	○オリエンテーション ○スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴 ○運動やスポーツの効果的な学習の仕方 ○豊かなスポーツライフの設計の仕方	①体育理論の各学習内容について理解し、知識を身に付けようとしている。
	○体づくり運動	○体ほぐしの運動 ○体力を高める運動	②自分の体力や生活に応じて、体ほぐしの行い方と体力の高め方を工夫している。 ③体づくり運動に対する関心や意欲を高めるとともに、互いに協力して運動を行おうとしている。
	○新体力テスト	○握力・上体起こし・長座体前屈 反復横とび・持久走 20mシャトルラン・50m走 立ち幅とび・ハンドボール投げ	③記録の向上を図るなど、意欲的に取り組んでいる。互いに協力して練習や測定を行おうとしている。
5	○器械運動	○マット運動・跳び箱	①自己の能力に応じた技を選択し、その技の習得や向上を図る。 ③自己の課題に応じ、練習を工夫し、技が円滑にできるようになる。
6	○球技	○短距離走、長距離走、島民大運動会種目 ○バドミントン	①公正な態度や安全に留意して練習やゲームをしようとしている。 ①チームの課題や自分の能力に応じて、各種目の特性に応じた技能を身に付け、作戦を生かした攻防を展開してゲームができています。 ②チームの課題や自分の能力に応じた課題を設定し、練習の仕方やゲームの仕方を工夫している。 ③各種目の特性に関心を持ち、楽しさを味わえるよう、チームにおける自分の役割を理解して取り組もうとしている。
7	○ダンス	○よさこいソーラン	①リズムの特徴をつかみ、楽しく踊る。 ②作品を作り上げた充実感を味わう。 ③互いに協力し合いながら、楽しく取り組んでいる。
8			
9	○球技	○ソフトボール（体協ソフトボール大会） ○バレーボール	①チームの課題や自分の能力に応じた課題を設定し、練習の仕方やゲームの仕方を工夫している。
10		○フットサル	②各種目の特性に関心を持ち、楽しさを味わえるよう、チームにおける自分の役割を理解して取り組もうとしている。
11		○バドミントン（体協バドミントン大会）	
12		○卓球（体協卓球大会）	③チームの課題や自分の能力に応じて、各種目の特性に応じた技能を身に付け、作戦を生かした攻防を展開してゲームができています。
1		○ミニバレーボール（体協ミニバレー大会）	
2		○バスケットボール	
3			公正な態度や安全に留意して練習やゲームをしようとしている。

※【知識・技能】→①、【思考力・判断力・表現力】→②、【主体的に学習に取り組む態度】→③として表現しています。

科目名	書道Ⅰ	履修区分	必修	学年	3	単位数	1
科目の目標	芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。						
教科書	書道Ⅰ（教育出版）			副教材	なし		

1 学習の目標

- (1) 臨書（手本を見て書くこと）と創作の両方の活動を通じて、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てる。
- (2) 書の歴史を学ぶことと自分の書活動を通じて、技術の向上のみならず、芸術文化についての理解を深める。

2 学習の方法

- (1) 予習について
  - ア 必要に応じて日常生活の中から指定された書体のものを探したり、あらかじめレポートを書いたりしてもらいます。
- (2) 授業について
  - ア 毎回作品制作の時間があるので、熱心に取り組んでください。毎回の授業への取り組みを振り返ったり、作品の出来を自己評価したりするための「振り返りシート」を記入してもらいます。また、返却された作品はファイルに保管し、1年間の成長を確認するために使います。大切に扱ってください。
- (3) 復習について
  - ア 学年末に、自分の作品を振り返ってレポートを書いてもらいます。

〈学習アドバイス〉  
 ○自分で作品を制作してみることで、日常生活の中で「美」や「芸術」を感じる機会が増えることを目標にしています。  
 ○作品は全て、自分のものも他人のものも「良いところ」「好きなおところ」を探すよう心がけましょう。  
 ○道具を丁寧に扱い、自分も周りも汚さないようにしましょう。

3 評価について

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
①書への関心・意欲・態度	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や観賞の創造的活動に取り組もうとする。
②書表現の構想と工夫	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。
③創造的な書表現の技能	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。
④鑑賞の能力	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。

(2) 評価の方法（以下観点①～④は、「(1) 評価の観点」と対応する）

観 点	評価材料												
		定期 考査	単元 テスト	小 テスト	実技 実習	発言 発表	作品	レポ ート	ワーク シート	討議			
①書への関心・意欲・態度					◎	◎	◎	○	○	○			
②書表現の構想と工夫					◎		◎		○				
③創造的な書表現の技能					◎		◎		○				
④鑑賞の能力					◎	○	◎		◎	○			

4 授業計画

月	単 元	学習内容	評価の観点
4 5	漢字の書の学習（楷書の学習）	牛橛造像記と鄭羲下碑の鑑賞と臨書	①字形を意欲的つかもうとしたか。 ②法帖の特徴をつかみ、表現できたか。
6 7	漢字の書の学習（行書の学習）	風信帖の鑑賞と臨書	②基本的な運筆法ができているか。 ④法帖ごとの違いを鑑賞できたか。
8 9	漢字の書の学習（草書の学習）	書譜の鑑賞と臨書	②潤濁を生かし、筆意のつながった表現に慣れたか。
10	漢字の書の学習（隷書の学習）	木簡の鑑賞と臨書	③隷書体の基本的な運筆ができたか。 ④木簡の味わいを鑑賞できたか。
11	仮名の書の学習	ひらがなと変体仮名の鑑賞・練習	②渴筆を恐れず、気脈の通った文字を書けるか。
12 1	漢字仮名交じりの書の学習	作品鑑賞を作品づくりに生かす。 さまざまな用具による表現の違いを踏まえて、自分の表現を探す。	①意欲的に取り組んだか。 ③臨書の学習で身につけたことを生かしているか。

※【書への関心・意欲・態度】→①、【書表現の構想と工夫】→②、【創造的な書表現の技能】→③、【鑑賞の能力】→④として表現しています。

※教材の順番については、変更することがあります。また、学校祭など、作品を発表する機会に合わせた取り組みをすることがあります。

科目名	コミュニケーション英語Ⅱ	履修区分	必修	学年	3	単位数	2
科目の目標	1. 外国語でコミュニケーションを図るために必要な基礎的な力を身につけ、活用することができる。 2. 読み聞きした情報や考えを的確に理解し、意見や考えを相手に伝わるようにまとめ・発表することができる。 3. 異なる文化・考えを理解し主体的・自立的にコミュニケーションを図ることができる。						
教科書	All Aboard! Communication English Ⅱ (東京書籍)	副教材	All Aboard! English Communication Ⅱ WORKBOOK				

### 1 学習の目標

- (1) 本文を読んだり聞いたりして、必要な情報を的確に理解しまとめることができる。  
 (2) 与えられたテーマについて、自分の考えや意見を書いたり、話したりすることができる。

### 2 学習の方法

- (1) 予習について  
 ア 基本的には不要です。必要な時は指示をします。
- (2) 授業について  
 ア 授業は基本的に英語で行います。  
 イ 授業は教科書とノート、プリント（ワークシート）主に使って行います。英和辞書も使います。  
 ウ ペア・グループでの発表や、自分の意見をまとめて発表する機会があります。積極的に取り組みましょう。  
 エ 単語の学習を定期的に行います。
- (3) 復習について  
 ア 教科書の英文を覚えてしまうくらいに何度も声に出して読むことが一番復習になります。  
 イ 授業で扱ったプリントの見直しや、ワークブックに自主的に取り組むのもおすすめします。

#### 〈学習アドバイス〉

- 普段、自習する際は復習に力を入れましょう。教科書の音読がおすすめです。  
 ○授業外では自分の実力や進路希望に合わせて、+αの勉強に取り組んでみましょう。実力を試すために検定試験を積極的に受けてみましょう。  
 ○「自分の意見を伝えること」「相手の意見に耳を傾けること」を大切にしてください。

### 3 評価について

#### (1) 評価の観点

観 点	趣 旨
①コミュニケーションへの関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。
②外国語表現の能力	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。
③外国語理解の能力	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。
④言語や文化についての知識・理解	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。

#### (2) 評価の方法（以下観点①～④は、「(1) 評価の観点」と対応する）

観 点	評価材料					
	定期考査	小テスト	授業中の活動	パフォーマンステスト	提出課題	ノート・ワークシート
①コミュニケーションへの関心・意欲・態度			○	○	○	○
②外国語表現の能力	○		○	◎	○	○
③外国語理解の能力	◎	○	○		○	◎
④言語や文化についての知識・理解	◎	○	○		○	○

4 授業計画

月	単 元	学習内容	評価の観点
4・5	L.7 Happiness through Hula	福島県いわき市とフラダンスについての物語を読み、その関係について概要を捉える。	③いわき市の歴史とフラダンスとの関係について、聞いたり読んだりしたことから概要や要点を正確にとらえることができる。
6	Communication 2	入国審査の場面において必要な基本的表現を使って対話する。	①相手の質問に対して、積極的に答えようとしている。 ②入国審査に必要な情報を適切に説明することができる。
	L.8 Magic of the Cotswolds	映画『ハリー・ポッター』ゆかりのコッツウォルズ地方について書かれた英文の手紙を読み、概要をとらえる。	①イギリスの町の風景や文化について関心を持ち、積極的に聞いたり書いたりしている。 ③コッツウォルズ地方についての説明を読み、正しく読み取ることができる。
8	文法のまとめ 3 (期末考査)	動詞の目的語になる if 節、知覚動詞、関係副詞 when/where について理解する。	④動詞の目的語になる if 節、知覚動詞、関係副詞 when/where の用法を理解し、これらを使って簡単な英語表現をすることができる。
9	Getting the Necessary Information 2	地下鉄の路線図を見て、目的地までの行き方を読み取り、表現する。	③地下鉄の路線図を読み取り、必要な情報を見つけることができる。
10	L.9 Bitter Truth about Chocolate	フェアトレードについて書かれた英文を読み、フェアトレードがどのようなものであるかについて理解し、それに対して自分の意見を述べる。	②フェアトレードについて、自分の意見を伝えることができる。 ③カカオ豆の生産状況に関する説明を読み、概要や要点を捉えることができる。
11	Extra Target 2	仮定法過去を用いて、自分の願望を表現する。	①間違いを恐れずに仮定法過去を用いて、自分の願望を発表しようとしている。 ②仮定法過去を用いて的確に自分の願望を表現することができる。
12	L.10 Designing for the Peace (期末考査)	マスードさんと地雷の問題について読み、マスードさんの生き方・考え方を捉える。	③地雷探索機をデザインしたマスードさんと地雷の問題について情報を正確に聞き取ることができる。
1	文法のまとめ 4	使役動詞、使役動詞、分詞構文について理解する。	④使役動詞、使役動詞、分詞構文の用法を理解し、これらを使って簡単な英語表現をすることができる。

※【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】→①、【外国語表現の能力】→②、【外国語理解の能力】→③、【言語や文化についての理解】→④として表現しています。

※文法のまとめ③～④の内容は Lesson 7～10 の中で扱う場合があります。

## 年次目標

できること	ALT と日常会話	天売島で観光案内 / 海外でホームステイ		海外高校参加 / 大学進学
科目(学年)			英語会話(3年生・選択)	
			コミュニケーション英語Ⅱ(3年生)	
	コミュニケーション英語Ⅱ(2年生)			
	英語表現Ⅰ(2年生)			
	コミュニケーション英語Ⅰ(1年生)			
英検目安	3級～準2級	準2級	準2級(～2級)	2級～
CEFR 目安	A1	A2.1	A2.2	B1
Reading 読むこと	身近なこと(好き嫌い、家族、学校生活など)に関する文章を理解することができる。	簡単な語を用いて書かれた人物描写、場所の説明、日常生活や文化紹介などの、説明文を理解することができる。	まとまりのある説明文の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。	学習を目的として書かれた新聞や雑誌の記事などの要点を理解することができる。 平易な英語で書かれた長めの物語の筋を理解することができる。
Listening 聞くこと	教科書の内容を意味がとれるように間をおきながら、ゆっくりと注意深く発音してもらえれば、発話を理解できる。	日常生活での話題や簡単な説明・支持を理解することができる。	日常生活での情報・説明を聞き取ったり、まとまりのある内容を理解することができる。	自分の周りで話されている少し長めの議論でも、はっきりとなじみのある発音であれば、その要点を理解することができる。
Writing 書くこと	簡単な語や基礎的な表現を用いて、自分に関する身近なこと(好き嫌い、家族、学校生活など)について短い文章を書くことができる。	興味・関心のあることについて簡単な文章を書くことができる。 and、but、becauseなどの簡単な接続詞を用いて、まとまりのある文章で自分の意見を書くことができる。	読み聞きした内容(生活や文化の紹介などの説明や物語)であれば、基礎的な日常生活語彙や表現を用いて、感想や意見などを短く書くことができる。	日常生活に関わりのある社会問題などについて、自分の意見を含めて、現状をまとめたり、基本的な内容を伝えることができる。
Speaking (Presentation) 話すこと (発表)	前もって発話することを用意した上で、身近なトピックについて、簡単な語や基礎的な表現を用いて、意見を言うことができる。	写真や絵、地図などの視覚的補助を利用しながら、一連の簡単な句や文を使って、身近なトピック(学校や地域など)について短い話をすることができる。	一連の簡単な語句や文を使って、自分の考えややってみたいことを、理由を挙げて短く述べることができる。	自分の考えを事前に準備して、メモの助けがあれば、聞き手を混乱させないように、馴染みのあるトピックや自分に関心のある事柄について語るすることができる。
Speaking (Interaction) 話すこと (やりとり)	自分に関する身近なこと(好き嫌い、家族、学校生活など)に関して、はっきり話されれば、学んだ語や基礎的な表現を用いて、簡単な意見交換をすることができる。	補助となる絵やものを用いて、基本的な情報を伝え、また、簡単な意見交換をすることができる。 単純な道案内をすることができる。	簡単な英語で、①意見や気持ちのやりとりや、②自分の意見を伝えること、③物や人を比較することができる。 駅・店・郵便局などで、学んだ語や表現を用いてやり取りがすることができる。	母語話者同士の議論に加われないこともあるが、自分が学んだトピックや自分の興味や経験の範囲内のトピックなら、抽象的なトピックであっても、議論できる。



科目名	情報処理	学年	3	単位数	1
科目の目標	ビジネスに関する情報を収集・処理・分析し、表現する知識と技術を習得させ、情報の意義や役割について理解させるとともに、ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用する能力と態度を育てる。				
教科書	最新情報処理（実教出版）	副教材	なし		

### 1 学習の目標

- (1) コンピュータやネットワークを活用して、情報を収集・処理・分析する能力を身に付ける。
- (2) 表、グラフ、画像などを用いて情報を適切に表現する知識と技術を習得する。
- (3) 情報の意義や役割を理解し、情報を主体的に活用する能力と態度を身に付ける。

### 2 学習の方法

- (1) 予習について
  - ア 日常的にPCを使う機会を増やし、情報処理への関心を高めましょう。
- (2) 授業について
  - ア 単元によって座学と実技のどちらも行います。ワークシートを使用して学習します。
- (3) 復習について
  - ア 授業で学習した知識・技術を確実なものとするため、復習・反復練習を行いましょう。

#### 〈学習アドバイス〉

- 情報社会の中で役立つ実践的な授業を行います。学習した内容が何の役に立つか、どんな仕事に活用できるかを考えてみましょう。
- 情報処理を学習するときは、身近な道具やニュースと絡めて考えてみましょう。

### 3 評価について

#### (1) 評価の観点

観 点	趣 旨
①関心・意欲・態度	情報の収集・処理・分析・表現について関心をもち、ビジネスの諸活動において情報を活用することを目指して主体的に取り組もうとするとともに、情報を活用する実践的な態度を身に付けている。
②思考・判断・表現	ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用することを目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。
③技能	情報の収集・処理・分析・表現に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、ビジネスの諸活動における情報の活用を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。
④知識・理解	情報の収集・処理・分析・表現に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、情報の意義や役割について理解している。

#### (2) 評価の方法（以下観点①～④は、「(1) 評価の観点」と対応する）

観 点	評価材料											
	定期 考査	単元 テスト	小 テスト	実技 実習	発言 発表	作品	レポ ート	ノート	ワーク シート	討議		
①関心・意欲・態度			○	○	○				○			
②思考・判断・表現			○	○	○				○			
③技能			○	○	○				○			
④知識・理解			○	○	○				○			

4 授業計画

月	単 元	学習内容	評価の観点
4	第4章 ビジネス文書の作成	第1節 ビジネス文書と表現	①文書主義の原則、文書情報の役割について興味を持ち、文書の分類や文書作成の要領について積極的に学ぼうとしている。 ②性格の文書の要件、分かりやすい文書の要件を理解し、文書の作成に役立てることができる。 ④文書主義の原則、文書の役割、文書の分類、文書の構成要素と配置について理解している。
5		第2節 図形と画像の活用	①図形や静止画による表現に興味を持ち、その表現手法を積極的に学ぼうとしている。 ②図形情報の特徴を理解し、目的に応じた適切なソフトウェアを選択できる。 ③ソフトウェアを利用して静止画像の読み込み、補正、画像効果、合成などの編集ができる。 ④静止画の補正や効果などの編集の技法について理解している。
6		第3節 基本文書の作成	①キーボードによる入力方法と効果的な文書の作成方法に興味を持って習得しようとしている。 ②社外文書、社交文書、取引文書、社内文書の作成方法を理解し、文書の作成に役立てることができる。 ③機器やソフトを適切に使用し、例題や練習問題を上手く仕上げることができる。 ④ワープロの基本的な操作方法やホームポジション、社外文書と社内文書の構成要素と配置、その相違点について理解している。
7		第4節 応用文書の作成	①キーボードによる入力方法と効果的な文書の作成方法に興味を持って習得しようとしている。 ②社外文書、社交文書、取引文書、社内文書の作成方法を理解し、文書の作成に役立てることができる。 ③機器やソフトを適切に使用し、例題や練習問題を上手く仕上げることができる。 ④ワープロの基本的な操作方法やホームポジション、社外文書と社内文書の構成要素と配置、その相違点について理解している。
8	①計算機能など利用した文書作成や、グラフや図形の貼り付けなど表現力に富んだ文書の作成方法を習得しようとする興味を持って操作している。 ②ソート機能やグラフ・表の貼り付け、図形描画機能などを利用することで、表現力に富んだ文書を作成することができる。 ③表計算の機能等を利用して、練習問題を上手く仕上げ、また各種の印刷方法を活用することができる。 ④表の作成・活用方法、グラフの作成方法、図形描画機能、ページ罫線の設定方法、差し込み印刷、はがき宛名印刷の方法について理解している。		
9	①計算機能など利用した文書作成や、グラフや図形の貼り付けなど表現力に富んだ文書の作成方法を習得しようとする興味を持って操作している。 ②ソート機能やグラフ・表の貼り付け、図形描画機能などを利用することで、表現力に富んだ文書を作成することができる。 ③表計算の機能等を利用して、練習問題を上手く仕上げ、また各種の印刷方法を活用することができる。 ④表の作成・活用方法、グラフの作成方法、図形描画機能、ページ罫線の設定方法、差し込み印刷、はがき宛名印刷の方法について理解している。		
10	第5章 プレゼンテーション	第1節 プレゼンテーションの技法	①効果的なプレゼンテーションの仕方について興味を持ち、積極的に学ぼうとしている。 ②分かりやすい話し方や発表態度でプレゼンテーションが実施できるとともに、自分や他者のプレゼンテーションについて、適切に評価できる。 ④プレゼンテーションの目的、種類、および実施にあたっての企画、準備等の流れの概念を理解している。
11		第2節 ビジネスとプレゼンテーション	①ストーリーの作成や資料の作成、発表等の実習に積極的に取り組んでいる。 ②目的に応じたストーリーの展開や資料の作成、話し方などについて考察し、効果的なプレゼンテーションを実施することができる。 ③目的に応じたストーリーの作成と、ソフトを利用して分かりやすい資料の作成ができる。 ④話し方の基本、資料作成の基本、表現技法、プレゼンテーションソフトウェアの特徴と基本機能について理解している。
12			①ストーリーの作成や資料の作成、発表等の実習に積極的に取り組んでいる。 ②目的に応じたストーリーの展開や資料の作成、話し方などについて考察し、効果的なプレゼンテーションを実施することができる。 ③目的に応じたストーリーの作成と、ソフトを利用して分かりやすい資料の作成ができる。 ④話し方の基本、資料作成の基本、表現技法、プレゼンテーションソフトウェアの特徴と基本機能について理解している。
1			①ストーリーの作成や資料の作成、発表等の実習に積極的に取り組んでいる。 ②目的に応じたストーリーの展開や資料の作成、話し方などについて考察し、効果的なプレゼンテーションを実施することができる。 ③目的に応じたストーリーの作成と、ソフトを利用して分かりやすい資料の作成ができる。 ④話し方の基本、資料作成の基本、表現技法、プレゼンテーションソフトウェアの特徴と基本機能について理解している。

※【関心・意欲・態度】→①、【思考・判断・表現】→②、【技能】→③、【知識・理解】→④として表現しています。

科目名	数学B	履修区分	選択A群	学年	3	単位数	2
科目の目標	数列、ベクトルについて理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。						
教科書	東京書籍「改訂 新数学B」	副教材	東京書籍「改訂 ニューファースト新数学B」				

1 学習の目標

- (1) 数列やベクトルに関する基礎的な知識の習得と技能の習熟を目指します。
- (2) 数学的活動を通して数学的な見方や考え方を身につけ、それらを実生活中で活用できるようになることを目指します。

2 学習の方法

- (1) 予習について
  - ア 特別な指示がない限り予習の必要はありません。
- (2) 授業について
  - ア 教科書をベースに進めていきます。必要なことは板書以外でもメモを取りましょう。
- (3) 復習について
  - ア 復習ノートを作成し、授業で扱った問題を再度解き直しましょう。
  - イ 週末課題を課しますので、類題の演習として活用して下さい。

〈学習アドバイス〉

- 「どう考えればうまくいきそうか」など数学的な見方や考え方を常に意識しながら授業を受けましょう。
- 例と例題など、「前の問題との違いはどこか」という視点で問題をみると、前の問題に帰着できます。

3 評価について

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
①関心・意欲・態度	数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。
②数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。
③数学的な技能	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。
④知識・理解	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。

(2) 評価の方法（以下観点①～④は、「(1) 評価の観点」と対応する）

観 点	評価材料	定期	単元	小	実技	発言	作品	レポ	ノート	ワーク	討議	学習	休業中
	検査	考査	テスト	テスト	実習	発表		ート		シート		課題	課題
①関心・意欲・態度						○			○			○	○
②数学的な見方や考え方	◎			○		○						○	○
③数学的な技能	◎			○								○	○
④知識・理解	◎			○		○						○	○

4 授業計画

月	単 元	学習内容	評価の観点
4	1章 数列	1節 数列 1. 数列と一般項 2. 等差数列 3. 等比数列	①数列に関心を持ち、数の並びの規則性について調べようとする。 ②ある規則に従って並べられた数の列の規則性を考察できるとともに、各種公式を導き出す過程を考察することができる。 ③一般項や和を求めることができる。 ④数列の意味を理解し、基礎的な知識を身につけている。
5		2節 いろいろな数列 1. いろいろな数列の和  2. 階差数列	①階差数列に関心を持ち、数列の一般項を求めることに活用しようとする。 ②自然数や平方数の和などを求める過程について考察することができる。 ③ $\Sigma$ を用いて数列の和を表し、和の計算ができる。 ④ $\Sigma$ の意味を理解し、和の公式などについて基礎的な知識を身につけている。
6		(前期中間考査)	
7	2章 ベクトル	3節 漸化式と数学的帰納法 1. 漸化式 2. 数学的帰納法	①数列を漸化式で表すことのよさをとらえようとする。 ②数列の隣り合う2つの項の間の関係について考察することができる。 ③漸化式を用いて数列の各項を求めたり、漸化式を用いて数列を表したりすることができる。 ④数学的帰納法の意味を理解し、その扱い方などについて基礎的な知識を身につけている。
8		1節 平面上のベクトル 1. 有向線分とベクトル 2. ベクトルの計算	①ベクトルの意味を理解し、身の回りから向きと大きさで決まる量を見つけ出そうとする。 ②異なる2つのものを表すのにベクトルが有効であることを理解できる。 ③ベクトルの和・差・実数倍を図示でき、計算することができる。 ④2つのベクトルが離れた位置にいても和・差・実数倍を図示でき、計算することができる。
9		(前期期末考査)	
10		2節 ベクトルの成分表示と内積 1. ベクトルの成分表示 2. 成分表示されたベクトルの計算 3. ベクトルの内積 4. ベクトルのなす角	①ベクトルを成分で表示することができる。 ②ベクトルの成分と座標との関係を理解することができる。内積の定義を理解できる。 ③内積の意味を理解できる。 ④ベクトルと成分の内積の問題を解くことができる。
11		3節 ベクトルの応用 1. 位置ベクトル 2. ベクトルと図形	①位置ベクトルの意味を理解し、積極的に使用できる。
12	(後期中間考査)	4節 空間におけるベクトル 1. 空間のベクトル 2. 空間の座標とベクトル 3. 空間のベクトルの内積 4. 空間のベクトルと図形	②位置ベクトルを使うことで、平面や空間のベクトルを1通りに表すことができるため、図形の様々な問題を解くことに有効であることを理解できる。 ③位置ベクトルを使うことで、さまざまな問題をすじ道だてて説明することができる。 ④平面、空間の様々な問題を位置ベクトルを使って解くことができる。
1			

※【関心・意欲・態度】→①、【数学的な見方や考え方】→②、【数学的な技能】→③、【知識・理解】→④として表現しています。

科目名	ビジネス情報（選択 A）	学年	3	単位数	2
教科書	ビジネス情報 新定版（実教）		なし		

科目の 目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動でビジネスにおけるインターネットの活用に必要な資質・能力を育成する。
-----------	--

評価の観点	趣 旨
①知識・技能	業務の情報化の必要性、情報通信ネットワークの導入と運用及びデータの保護を取り扱い、オフィス業務において情報通信ネットワークを効果的に活用するための基礎的な知識と技術を習得させる。
②思考・判断・表現	ビジネスに関する情報を表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアを利用して管理、分析、活用する思考・判断・表現することができる。
③主体的に学習に取り組む態度	ソフトウェアを利用したビジネス情報システムの開発について理解し、コンピュータを活用して業務を合理化、自動化するなど積極的に推進する創造的な能力と態度を育てる。

評価の方法（以下観点①～③は、「評価の観点の趣旨」と対応する）

観 点	評価材料	評価項目											
		定期 考査	単元 テス ト	小 テス ト	実技 実習	発言 発表	作品	レポ ー ト	ノート	ワーク シート	討議	学習 課題	休業中 課題
①知識・技能					○	○	○	○					
②思考・判断・表現					○	○	○	○					
③主体的に学習に取り組む態度					○	○	○	○					

## 1 学習の目標

- (1) インターネットの活用について実務的・体系的・系統的に理解し関連する技術を身につける。
- (2) ビジネスにおけるインターネットの活用にあつ主体的かつ協動的に取り組む。

## 2 学習の方法

- (1) 授業による実技演習・作品・レポートの区政
- (2) 授業について  
実習中心による学習活動
- (3) 復習について  
作品等を使用し、管理運営により確認

### 〈学習アドバイス〉

実習中心とする作業学習です。作品による評価の為、期日元首となります。又PC作業が中心でありPCが好きな事が条件です。

3 授業計画

月	単 元	学習内容	評価の観点
4	1 ビジネスと情報	①情報化社会とビジネス ②ネットワークとビジネス	①②ビジネスと情報について、技能を行うことができ、・思考・判断・表現をすることができる。 ③ビジネスと情報について主体的に取り組む姿勢がみられる。
5	2 ネットワーク活用	①ネットワークの基礎 ②ネットワーク構築 ③サーバー管理 ④セキュリティー管理	①②ネットワーク活用について、技能を行うことができ、・思考・判断・表現をすることができる。 ③ネットワーク活用について主体的に取り組む姿勢がみられる。
6			
7			
8	3 ソフトウェア活用	①集計処理 ②オペレーションリサーチ ③ビジネス計算 ④自動化	①②ソフトウェア活用について、技能を行うことができ、・思考・判断・表現をすることができる。 ③ソフトウェア活用について主体的に取り組む姿勢がみられる。
9	4 データベース活用	①ビジネス情報とデータベース ②データベースの利用 ③SQLの作成	①②データベース活用について、技能を行うことができ、・思考・判断・表現をすることができる。 ③データベース活用について主体的に取り組む姿勢がみられる。
10			
11			
12	5 システムの開発	①システムの開発 ②アルゴリズム ③表計算ソフトによる開発 ④データベースソフトによる開発	①②システム開発について、技能を行うことができ、・思考・判断・表現をすることができる。 ③システム開発について主体的に取り組む姿勢がみられる。
1			
2			
3			

※【知識・技能】→①、【思考・判断・表現】→②、【主体的に学習に取り組む態度】→③、として表現しています。

科目名	数学研究	履修区分	選択B群	学年	3	単位数	2
科目の目標	数学Ⅰ、数学Aの各分野を横断するテーマや、それらと生活を相互に関連付けたテーマを設定し、そのテーマにかかわる課題について、多様な考え方により解決を図ることができることに気付かせるとともに、数学を積極的に研究する態度を育てる。						
副教材	Hi-PRIME 数学Ⅰ+A (東京書籍)						

1 学習の目標

- (1) 数学Ⅰ・数学Aの復習と、より高いレベルの問題に触れることで思考力を養い、積極的に研究する態度を身に付けます。  
(2) 設定した課題について調べ、その成果を発表することで、論理的に考え、表現する力を身に付けます。

2 学習の方法

- (1) 予習について  
ア 数学Ⅰ・Aの復習の際には、簡単に該当箇所の教科書に目を通しておいください。  
(2) 授業について  
ア 数学Ⅰ・Aの復習をしながら、年度末に1つ課題研究をします。その成果をレポートにまとめ、いずれか1つの内容について、学年末に発表します。  
(3) 復習について  
ア 数学Ⅰ・Aの復習では章ごとに小テストを行います。演習問題を行った際には復習ノートを作成し、問題の書き直しを行ってください。

〈学習アドバイス〉  
○数学Ⅰ・Aの復習と発展問題に取り組むことは課題探究の基礎的な力となります。忘れているところはこの機会に自分のものにしましょう。  
○数学Ⅰ・Aの復習は、単なる復習と捉えるだけでなく、「この中から課題を見つけられないか」という視点で取り組むと課題設定の際の参考になります。

3 評価について

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
①関心・意欲・態度	基礎的な数学の知識を身に付け、数学に関心をもつとともに、積極的に数学の問題に取り組んでいる。また、難しい問題にも最後まで挑戦しようとする態度を身に付けている。
②数学的な見方や考え方	数学的な活動を通して、事象を数学的にとらえ、数学的な見方・考え方を身に付けている。
③数学的な技能	事象を数学的に表現・処理する方法や推論の方法などの技能を身に付けている。
④知識・理解	数学における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基本的な問題の解法を身に付けている。

(2) 評価の方法 (以下観点①～④は、「(1) 評価の観点」と対応する)

観 点	評価材料												
	定期 考査	単元 テスト	小 テスト	実技 実習	発言 発表	作品	レポ ート	ノート	ワーク シート	討議	学習 課題	休業中 課題	
①関心・意欲・態度					○			○			○	○	
②数学的な見方や考え方	◎		○		○						○	○	
③数学的な技能	◎		○								○	○	
④知識・理解	◎		○		○						○	○	

4 授業計画

月	単 元	学習内容	評価の観点
4	<数学Ⅰ> 1章 数と式についての研究 ・基本事項の学習 ・発展問題等の研究	基本事項の定着を図り、複雑な展開・因数分解、対称式、二重根号、絶対値を含む方程式・不等式について学びます。	①問題に積極的に取り組んでいるか。 ②基本事項の積み重ねで発展問題にどうアプローチすればよいかを考える。 ③基本的な式変形や計算ができる。 ④数と式に関する用語をおさえ、基本的な問題の解法を身に付ける。
5			
6	2章 集合と論証についての研究 ・基本事項の学習 ・発展問題等の研究 (前期中間考査)	集合という概念を用いることにより、物事を論理的に考え、証明方法について学びます。	①問題に積極的に取り組んでいる。 ②基本事項の積み重ねで発展問題にどうアプローチすればよいかを考える。 ③背理法の手法を正しく理解し、実際の証明において活用できる。 ④反例の意味を理解し、適切に反例をあげることができる。
7			
8	3章 2次関数についての研究 ・基本事項の学習 ・発展問題等の研究	基本事項の定着を図り、定義域が変化する場合の最大・最小や、2次方程式の解の存在範囲、放物線と直線の共有点について学びます。	①問題に積極的に取り組んでいる。 ②基本事項の積み重ねで発展問題にどうアプローチすればよいかを考える。 ③基本的な式変形や計算ができる。 ④2次関数に関する用語をおさえ、基本的な問題の解法を身に付ける。
9	4章 図形と計量についての研究 ・基本事項の学習 ・発展問題等の研究 (前期期末考査)	基本事項の定着を図り、空間図形への三角比の応用方法を学びます。	①問題に積極的に取り組んでいる。 ②基本事項の積み重ねで発展問題にどうアプローチすればよいかを考える。 ③基本的な式変形や計算ができる。 ④三角比に関する用語をおさえ、基本的な問題の解法を身に付ける。
10	5章 データの分析についての研究 ・基本事項の学習 ・発展問題等の研究	日常生活における様々なデータの処理の仕方を学び、実際に身の回りのことに関して統計的な活動を行います。	①問題に積極的に取り組んでいる。 ②基本事項の積み重ねで発展問題にどうアプローチすればよいかを考える。
11	<数学A> 1章 場合の数・確率についての研究	基本事項の定着を図り、それらの応用方法を学びます。	①問題に積極的に取り組んでいる。 ②基本事項の積み重ねで発展問題にどうアプローチすればよいかを考える。
11	2章 整数の性質についての研究	基本事項の定着を図り、それらの応用方法を学びます。	①問題に積極的に取り組んでいる。 ②基本事項の積み重ねで発展問題にどうアプローチすればよいかを考える。 ③事象を整数の考え方をを用いて処理することができる。
12	3章 図形の性質についての研究 (後期中間考査) 課題探求 (課題の例)	基本事項の定着を図り、それらの応用方法を学びます。	①問題に積極的に取り組んでいる。 ②基本事項の積み重ねで発展問題にどうアプローチすればよいかを考える。
1	・既習公式の証明 ・発展的な問題の研究	例に挙げたものや、その他自分で設定した課題について調査・研究し、その成果をまとめます。また、まとめたものを発表します。	①調査や発表資料の作成に意欲的に取り組んでいる。 ②設定した課題を数学的な見方や考え方をを用いて処理している。 ③事象を数学的に表現・処理する方法や推論の方法などの技能を身に付けている。 ④設定した課題の数学的な理解ができています。

※【関心・意欲・態度】→①、【数学的な見方や考え方】→②、【数学的な技能】→③、【知識・理解】→④として表現しています。



科目名	化学基礎	履修区分	選択B群	学年	3	単位数	2
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。						
教科書	改訂 新編化学基礎（東京書籍）		副教材	フォトサイエンス化学図録（数研出版）			

### 1 学習の目標

- (1) 化学が物質を対象とする科学であることや化学が人間生活に果たしている役割を理解する。
- (2) 原子の構造、電子配置と周期律の関係及び、化学結合のしくみについて理解する。
- (3) 化学反応の量的関係など基本的な概念や法則が理解できるとともに日常生活や社会と関連付けて考察する。

### 2 学習の方法

- (1) 予習について
  - 特に必要なし。
- (2) 授業について
  - 板書等を用いて説明するので、ノート等にまとめながら理解しましょう。
  - 繰り返して練習することが必要な分野については、プリントを配布して問題数をこなします。
- (3) 復習について
  - 教科書の例題や問を解きましょう。
  - 教科書の章末問題や例題に積極的に取り組みましょう。
  - ニューサポート化学基礎の問題に取り組みましょう。

#### 〈学習アドバイス〉

- 元素の周期表など覚える必要のあるものは、確実に覚えたいうえで、活用できるようにしましょう。
  - 板書を写すだけでなく、担当教員の説明の中で重要だと思う点をメモしながら授業に参加しましょう。
- ※ 計算問題がたくさん出ます。約分や移項など、数式を簡単にしてから計算処理を行う視点を持ちましょう。

### 3 評価について

#### (1) 評価の観点

観 点	趣 旨
①関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。
②思考・判断・表現	物質とその変化の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
③観察・実験の技能	物質とその変化に関する観察、実験等を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
④知識・理解	物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

#### (2) 評価の方法（以下観点①～④は、「(1) 評価の観点」と対応する）

観 点	評価材料											
	定期 考査	単元 テスト	小 テスト	実技 実習	発言 発表	作品	レポ ート	ノート	ワーク シート	討議	課題	
①関心・意欲・態度				○	◎			◎	○	○	○	
②思考・判断・表現	○				○		◎	○		◎		
③観察・実験の技能				◎			○					
④知識・理解	◎		○						○		○	

4 授業計画

月	単 元	学習内容	評価の観点
4	序編 化学と人間生活		
5	1編 物質の構成	1章 物質の成分と構成元素 物質の成分 物質の構成元素 物質の三態	①日常生活において物質が適切に使用されている例を通して、科学に対する興味・関心を高める。 ③物質の分離・精製や元素の確認など単体、化合物及び混合物について理解する。
6	(中間考査)		④粒子の熱運動と温度及び物質の三態変化との関係について理解する。
7		2章 原子の構造と元素の周期表 原子の構造 電子配置と周期表	②原子の構造及び陽子、中性子、電子の配置を、周期表と関連付けて理解する。
8	(期末考査)	3章 化学結合 イオンとイオン結合 分子と共有結合 金属と金属結合	④イオンの生成を電子配置と関連付けて理解する。 ②それぞれの原子の結合の仕組みと性質を理解する。
9	2編 物質の変化	1章 物質量と化学反応式 原子量・分子量・式量 物質量 溶液の濃度 化学反応式とその量的関係	②物質量と粒子数、質量、気体の体積との関係について理解し、計算することができる。 ③実験を通して物質の量的関係を理解し、レポートにまとめることができる。
10			
11	(中間考査)	2章 酸と塩基 酸と塩基 水素イオン濃度とpH 中和反応と塩 中和滴定	③中和滴定に使用する実験器具の使い方を正しく理解する。 ②酸と塩基の異なる定義について、説明することができる。
12		3章 酸化還元反応 酸化と還元 酸化剤と還元剤 金属の酸化還元反応 酸化還元反応の反応	④酸化と還元が電子の授受によることを理解する。 ①酸化還元反応と日常生活や社会とのかわりについて理解する。
1	基本演習		②図やグラフを用いた問題に取り組み科学的思考力を身につけ表現する。

※【関心・意欲・態度】→①、【思考・判断・表現】→②、【観察・実験の技能】→③、【知識・理解】→④として表現しています。

科目名	英 語 会 話	履修区分	選択C群	学 年	3	単位数	3
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、身近な話題について会話する能力を伸ばす。						
教科書	Hello there! (東京書籍)	副教材	アクセル英語総合問題演習 a (桐原書店) 共通テスト英語リスニングオリジナル問題集 TOUCH10 (桐原書店) 共通テスト英語リーディングオリジナル問題 TACTICS10 (桐原書店)				

1 学習の目標

- (1) 英語で積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度を養う。
- (2) 日常生活に関わりのある社会問題などについて、自分の意見を伝える表現力を養う。
- (3) 状況や場面に応じて、適切にコミュニケーションを取る力を養う。

2 学習の方法

- (1) 予習について
  - ア 基本的には不要です。必要な時は指示をします。
- (2) 授業について
  - ア 授業は基本的に英語で行います。
  - イ 授業は教科書とノート、プリントを主に使って行います。英和辞書も使います。
  - ウ ペア・グループでの発表や、自分の意見をまとめて発表する機会があります。積極的に取り組みましょう。
  - エ 定期考査は実施しません。普段の取り組みが評価に大きく関わります。
- (3) 復習について
  - ア 教科書やプリントの見直しをしましょう。
  - イ 辞書などで、自分が使いたい表現を調べておくことで普段の授業で役に立ちます。

〈学習アドバイス〉

○授業中で英語を使って受け答えをすることが多いですが、間違いを恐れずに英語で話してみてください。  
 ○英語で話す・書く機会が多くあります。ノートを活用して、取り組んだ内容をまとめておくようにしてください。

3 評価について

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
①コミュニケーションへの関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。
②外国語表現の能力	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。
③外国語理解の能力	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。
④言語や文化についての知識・理解	英語やその運用についての知識を身につけているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。

(2) 評価の方法 (以下観点①～④は、「(1) 評価の観点」と対応する)

観 点	評価材料					
	定期考査	小テスト	授業中の活動	パフォーマンステスト	提出課題	ノートワークブック
①コミュニケーションへの関心・意欲・態度			◎	◎	○	○
②外国語表現の能力			○	◎	○	◎
③外国語理解の能力			○		○	○
④言語や文化についての知識・理解		◎			○	○

4 授業計画

【各単元共通】

- ①各単元の表現活動を積極的に行うことができる。
- ③各単元の学習内容が使われている英語を、その言語材料が使われている意図や背景を踏まえて読み聞きすることができる。
- ④各単元の学習活動に必要な知識を身につけているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。

月	単元	学習内容	評価の観点
4	L1 Nice to Meet You	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつをする</li> <li>・自分を紹介する</li> <li>・意味を尋ねる／説明する</li> <li>・きき返す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>②初対面のあいさつができる。</li> <li>②自己紹介の流れを理解できる。</li> <li>②名前の意味を聞いたり言ったりできる。</li> <li>②中学校時代のことを聞いたり言ったりできる。</li> </ul>
5	L2 Hello, Friends!	<ul style="list-style-type: none"> <li>・許可を求める・与える</li> <li>・相手について尋ねる／答える</li> <li>・リストアップする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>②インタビューの際に必要な表現を使うことができる。</li> <li>②出身地を聞いたり言ったりできる。</li> <li>②他人紹介の流れを理解できる。</li> </ul>
	(パフォーマンステスト①)		
6	L3 My Favorite Music?	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見をいう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>②好きな音楽分野などを聞いたり言ったりできる。</li> </ul>
7	L4 What Are You Crazy About?	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味／関心を伝える</li> <li>・誘う／誘いを断る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>②自分が好きなものについて理由をあげて説明することができる。</li> <li>②学んだ表現を使って、だれかを誘う活動を行うことができる。</li> </ul>
8	L5 A Friendly Potluck Dinner	<ul style="list-style-type: none"> <li>・許可を求める</li> <li>・許可する / 許可しない</li> <li>・説明する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>②許可を求めたり、許可をしたり、拒否したりすることができる。</li> <li>②料理の手順について聞いたり、説明したりすることができる。</li> </ul>
	(パフォーマンステスト②)		
9	L6 Are you All Right?	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同情する</li> <li>・事情を理解する</li> <li>・助言する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>②同情を表現することができる。</li> <li>②体調について聞いたり、説明したりすることができる。</li> <li>②助言を聞いたり、助言をしたりすることができる。</li> </ul>
	(パフォーマンステスト③)		
10	L7 Talking about Our Town	<ul style="list-style-type: none"> <li>・描写する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>②町の位置について（距離・方角）描写することができる。</li> <li>②場所の特徴を描写することができる。</li> </ul>
11	L8 Traditional Culture	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予定を尋ねる／答える</li> <li>・習慣を尋ねる</li> <li>・説明する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>②予定について聞いたり話したりできる。</li> <li>②習慣について尋ねることができる。</li> <li>②習慣や伝統について説明することができる。</li> </ul>
12	L9 Equal Roles	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感想・感情を述べる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>②自分の価値観をはっきりと表現することができる。</li> <li>②友達とあるテーマについて意見を交換することができる。</li> </ul>
1	L10 Helping Each Other	<ul style="list-style-type: none"> <li>・推測する・主張する</li> <li>・描写する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>②推測した考えを表現できる。</li> <li>②自分の主張をはっきりと述べることができる。</li> </ul>

※【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】→①、【外国語表現の能力】→②、【外国語理解の能力】→③、【言語や文化についての知識・理解】→④として表現しています。

※ 進度に応じて発展的学習として副教材を活用し評価にも加えます。使う際は、都度指示をします。

科目名	課題研究	履修区分	選択C群	学年	3	単位数	3
科目の目標	商業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。						
教科書	なし	副教材	なし				

1 学習の目標

- (1) 商業に関する専門的な知識と技術の深化、総合化を図る。
- (2) 自ら課題を発見して解決する能力や、自発的、創造的に学習に取り組む態度を身に付ける。
- (3) 職業資格の取得に取り組み、学習に取り組む態度を身に付ける。

2 学習の方法

- (1) 予習について
  - ア 予習の必要はありません。
- (2) 授業について
  - ア 何かを教わる授業ではなく、課題解決のために自分で調べ、自分で考え、自分でまとめたものを発表してもらった授業です。課題は『サービス業』の企画、マーケティング、プレゼンテーションです。
- (3) 復習について
  - ア 課題解決のために、必要な知識を学習しましょう。

〈学習アドバイス〉

- 企画から発表まですべて自分で行います。頑張ればそれだけすごい発表になり、何もしなければつまらない発表になります。自分の力で行う研究、発表を楽しみましょう。
- 研究の過程で得たマーケティングやビジネス活動の知識を活用し、検定の取得が可能です。目標として取り組みましょう。

3 評価について

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
①関心・意欲・態度	ビジネスの諸活動に関する諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
②思考・判断・表現	ビジネスの諸活動に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。
③技能	商業の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、ビジネスの諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。
④知識・理解	商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、ビジネスの意義や役割を理解している。

(2) 評価の方法（以下観点①～④は、「(1) 評価の観点」と対応する）

観 点	評価材料											
	定期 考査	単元 テスト	小 テスト	実技 実習	発言 発表	作品	レポ ート	ノート	ワーク シート	討議		
①関心・意欲・態度			○	○	○		○		○			
②思考・判断・表現			○	○	○		○		○			
③技能			○	○	○		○		○			
④知識・理解			○	○	○		○		○			

4 授業計画

月	単元	学習内容	評価の観点
4	I オリエンテーション	1. 課題研究の意義 2. 課題研究の構成・流れ 3. 課題の設定	①自ら設定した課題に取り組むことの意義に関心を持ち、積極的に課題を設定しようとしている。
5	II 課題解決の手法	1. PDCAサイクル 2. 問題解決の手法 3. 計画の立案方法	④PDCAサイクルや問題解決の手法とその分類、活用方法について理解している。
	III 計画の作成	1. 目標設定 2. 計画の作成 3. 日誌の記録方法	②自分に適した目標を設定し、的確な判断に基づく現実的な計画を立て、計画書に表現することができる。
6	IV マーケティング調査	1. 調査の方法・手順の学習 2. 計画に基づいた調査	③自分で立てた計画に基づき、正しい手順に沿った方法で調査を行うことができる。
7			
8	V 情報分析	1. 情報分析の手法の学習 2. 計画に基づいた分析	④情報を分析する手段の種類、手順、正しい方法を理解している。
9			
10	VI 企画の立案	1. 企画・発表についての学習 2. 企画書の作成 3. 発表資料の作成	②これまで調査・分析してきた内容をもとに、客観的な事実と自分の主張、そして予想される反論とそれに対する返答を、企画書と発表資料に表現することができる。
11			
12	VII 発表	1. プレゼンテーション技法の学習 2. 発表練習 3. 発表	③ハンドアクションや目線、分かりやすい話し方など、プレゼンテーションの技法を正しく使用して、発表を行うことができる。
1	VIII 反省	1. 報告書の作成 2. 自己評価 3. 成果と課題	①これまでの活動を振り返り成果と課題の確認を行うことに関心を示し、報告書の作成や自己評価を意欲的に行っている。

※【関心・意欲・態度】→①、【思考・判断・表現】→②、【技能】→③、【知識・理解】→④として表現しています。

科目名	水産海洋基礎	学年	3	単位数	1
科目の目標	水産や海洋に関するきそてきな知識と技術を習得させるとともに、水産業や海洋関連産業が国民生活に果たしている役割を理解する。				
教科書	水産海洋基礎（海文堂）	副教材	なし		

1 学習の目標

- (1) 水産業や海洋関連産業において必要となる基礎的な資質・能力を育成する。
- (2) 地域の産業を体験し、水産資源の有効活用と加工技術の習得により身の回りの環境について考える。
- (3) 課題を設定し、問題解決能力を科学的視点から取り組み地域産業の水産の理解を深める。

2 学習の方法

- (1) 予習について
  - ア 基本的には必要ありません。
- (2) 授業について
  - ア 水産実習は原材料の下処理から袋詰めまでを行います。
  - イ 課題研究では研究活動として調査・実験や、発表の準備・練習を行います。
- (3) 復習について
  - ア 水産実習で身に付けた魚の下処理方法などを、実際に家でも試してみましょう。

〈学習アドバイス〉

- 水産実習では怪我や火傷に注意するとともに、服装や清掃など衛生管理に気を付けながら加工を行いましょう。
- 課題研究では、話し方や見せ方などの、プレゼンテーションの向上を意識しながら取り組みましよう。

3 評価について

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
①関心・意欲・態度	水産や海洋に関する諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
②思考・判断・表現	水産や海洋に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、水産業や海洋関連産業に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。
③技能	水産や海洋の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、水産や海洋に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。
④知識・理解	水産や海洋の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、水産業や海洋関連産業の意義や役割を理解している。

(2) 評価の方法（以下観点①～④は、「(1) 評価の観点」と対応する）

観 点	評価材料											
	定期 考査	単元 テスト	小 テスト	実技 実習	発言 発表	作品	レポ ート	ノート	ワーク シート	討議		
①関心・意欲・態度				◎	○		○					
②思考・判断・表現					○	○	◎					
③技能				◎								
④知識・理解						○	○					

4 授業計画

月	単 元	学習内容	評価の観点
4	水産オリエンテーション 水産実習に関する食品衛生	食品衛生講習	④食中毒などの事故を防ぎながら、高い品質の食品を製造する方法を身につける。
	課題研究に関する講義	食品・製造・環境などに関する講義	④水産学における基礎知識を理解する。
7	ウニ缶詰	ウニ剥き・秤量・缶・加圧殺菌・ラベル貼り・レポートまとめ	③ウニの処理法や缶詰作りの方法を習得する。 ①積極的に実習に参加し、協調性を養う。
9	課題研究	水産に関する課題研究	②これまで学んできた知識を活用して水産及び天売地域の課題について考えまとめる。
10	実習準備	マキリ研ぎ 共同作業所清掃	③安全面に考慮しながら、正しくマキリを研ぐことができる。 ①衛生面に十分配慮し、積極的に清掃を行う。
	スモークサーモン	下処理・調味・金網上げ・パック詰め レポートまとめ	③紅鮭の処理法や燻煙がけの方法を習得する。 ①積極的に実習に参加し、協調性を養う。

※【関心・意欲・態度】→①、【思考・判断・表現】→②、【技能】→③、【知識・理解】→④として表現しています。

※4月から適宜9月の課題研究の準備が入ります。



科目名	天売学	学 年	全学年	単位数	1
科目の 目 標	天売島の歴史・文化・産業及び自然について学ぶことにより、郷土を愛する心を育成し、地域の発展を担う人材を育成する。				
教科書	なし	副教材	なし		

### 1 学習の目標

- (1) 天売島についての知識を、歴史・文化・産業・自然等の視点から深めます。  
(2) 課題の解決や探究活動に主体的、創造的、協働的に取り組む力を身に付けます。

### 2 学習の方法

- (1) 予習について  
ア 基本的には必要ありません。
- (2) 授業について  
ア 資料を用いながら講義を行います。  
イ 学習したことをClassiに入力し、ポートフォリオを作成します。
- (3) 復習について  
ア 発表資料をまとめる前には、1年間でのどのようなことを学習したか資料を見直しておきましょう。

#### 〈学習アドバイス〉

- 最後の授業は1年間天売学で学んだことを発表します。発表資料の作成に困らないよう、講義の際に配られる資料だけでなく、講師の先生のお話で重要だと思った部分をメモしながら授業を受けましょう。

### 3 評価について

#### (1) 評価の観点

観 点	趣 旨
①知識・技能	・天売島の郷土文化について学び、島の現状について総合的に理解している。 ・島の歴史・文化・自然について理解するための技能を身に付けている。
②思考・判断・表現	・資料等を整理し、島について客観的に判断して自分の考えを他者へ伝えることができる。
③主体的に学習に取り組む態度	・天売島について興味・関心を持ち、積極的に学ぶ態度を身に付けている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

#### (2) 評価の方法（以下観点①～③は、「評価の観点の趣旨」と対応する）

材料 観 点	評 価											
	定期 考査	単元 テス ト	小 テス ト	実技 実習	発 言 発 表	作 品	資 料 作 成	ノ ー ト	Classi	討 議	学 習 課 題	休 業 中 課 題
①知識・技能							○		○			
②思考・判断・表現				○	○		○		○			
③主体的に学習に取り組む態度				○	○		○		○			

4 授業計画

月	単 元	学習内容	評価の観点
4	島内清掃天売クリーン作戦	天売の環境について	①天売の自然や環境問題について理解している。 ③主体的に地域行事に参加し、地域の特性や課題を発見する力を身に付けている。
6	天売の伝統文化（実習）	伝統文化の創造について（天売太鼓）	①天売太鼓を通じて伝統文化の創造と継承を図ることができる。 ②実技・実演を通して伝統文化の表現ができる。
10	天売の自然（実習・講義）	天売の野鳥や自然環境について	①天売の自然を学習し、野鳥を取りまく環境について理解している。
11	天売体育協会主催 バドミントン大会への参加	地域の特性や課題について	③主体的に地域行事に参加し、地域の特性や課題を発見する力を身に付けている。
	天売の未来Ⅰ（実習）	これからの天売について（発表資料作成）	②天売の現状の課題や解決方法を考える事ができる。
12	天売の未来Ⅱ（実習）	これからの天売について（発表資料作成）	②天売の現状の課題や解決方法を考える事ができる。
	天売の未来Ⅲ（発表）	これからの天売について（発表）	②これまでの学習や資料をまとめ、自分の考えを他者へ伝えることができる。
1	天売体育協会主催 ミニバレー大会への参加	地域の特性や課題について	③主体的に地域行事に参加し、地域の特性や課題を発見する力を身に付けている。

※【知識・技能】→①、【思考・判断・表現】→②、【主体的に学習に取り組む態度】→③、として表現しています。